



少数精鋭だから成せる業。 クリーンな環境と優秀な社員が生産する 「ハッピーサークル」で新たな幸せを。

香川県内の元気な企業を訪問し、その企業が発展してきた過程と躍進し続ける今、そして未来への指針についてお聞きする「かがわ発! 元気創出企業」。今回は、善通寺市にある「松浦産業株式会社」を訪ねました。手提げ用紙袋の把手や大型テーマパークのプラスチック食品容器などを生産する同社。時代のニーズを読みながら次々と新しいモノを生み出しています。同社の成り立ちについてお伝えしながら、新たにデザイン性を意識した把手「ハッピーサークル」の魅力について探ります。



自社製品であるPP紐や各種メーカーの紙袋用タックハンドル、食品メーカーが商品に付けるOEMプラスチック製容器など、多岐にわたる製品展開



効率よく製造できるように組まれた工場ライン。さまざまな製品がここから生まれます



社長室にかけられた「積み藁」を描いた絵画。創業時に手掛けたのが藁紐ということで「これがわが社の原点」と松浦氏

わら縄ロープ生産から始まった松浦産業株式会社。PP・PE延伸ロープなどの生産により、プラスチック業界進出へと移り変わってきました。大手飲料メーカーやお菓子メーカーなどの紙袋把手やタックハンドルを生産し、人々の身近なところで目にするようになりました。少数精鋭ながら業界トップシェアを誇る生産性の理由と小型紙袋専用把手「ハッピーサークル」について、創業者であり代表取締役である松浦公之氏にお聞きしましょう。

代表取締役社長
松浦 公之氏

代表取締役の松浦公之氏。「実務は2割程度しかしていない」と笑いますが実際は東京と香川を頻りに行き来する多忙ぶり

松浦産業 株式会社
代表者 松浦 公之氏
所在地 香川県善通寺市吉田町270-1
電話番号 (0877) 62-2555
URL <http://www.matsuura-sangyo.co.jp/>



時代の流れに負けず、新たな手法で 幸せを運ぶためによりよいモノを生産

「私たちは、幸せを運んでいる」をテーマに、手提げ袋用把手やプラスチック製品などの製造を行う松浦産業株式会社。創業以来、数々の製品を生み出しながら様々な社会環境の変化にも柔軟に対応してきました。例えば、平成12年に「容器リサイクル法」が制定された際のプラスチック製品のイメージ低下。あるいは、海外生産による受注の流出やリーマンショックなどの影響もありました。しかし、日本パッケージングコンテストでの入賞やメディアでの報道など、積み上げてきた製品のクオリティやその技術を評価に繋げ、そのたびに危機を回避。今では、プラスチック容器や手提げ用の把手部などの生産で、全国トップシェアを誇るまでに成長したのです。

「情報を東京で取り入れるとともに、売り先も東京であるべき」と話す松浦氏。平成6年に東京にもオフィスを構え、自らが香川県と行き来しつつ、多くの人に会い、常に新しい情報をキャッチしています。「問題がタイムリーなうちに現場での究明を図ることが企業存続には大切」と話す松浦氏は、常にスピードを意識しながら社員との素早いやりとりを行い、あらゆる角度からの視点で諸問題を解決してきたと話します。

効率の良いクリーンな工場と フレキシブルに対応できる社員が輝く

社員の健康管理が1番大事だと考える松浦氏。40名の社員が交代制で働くことで、休日を確実に取得すると同時にロスが出ないように設備を稼働させることができている。「単に規模を大きくして売上げだけを考えるやり方では、社員が疲弊するばかりで効率が悪い」と松浦社長はいます。そのため、同社では、商品となる柱が10本あり、常に8本稼働させ、2本休ませることで効率化を図っているそう。「この環境が作れたのは、もちろんフレキシブルに環境に対応できる優秀な社員だったからこそ」と目を細めます。

香川県をはじめ地方の企業は、特長・持続性・高級感を大切にすることがあると考える松浦氏。その理由は「悪いものをよく見せかけて安く売るやり方では続かない」から。国内はもとより海外でも職場環境の充実が目される現在、同社は工場内のクリーンな状態を徹底し、トイレも最新設備にするなど社内環境を整えています。そのうえで、適正な価格で取引を行い、差別化を図って自分たちの商品を守っています。社内の一つひとつを見直し、風通しの良い環境をつくる。だからこそ、社員も幹部も同じ気持ちを持って、全員で戦うことができる。そのことが会社の成長につながるのでしょう。



高級感のあるデザインはもちろん、袋と紐機能やロゴの刻印が可能といった機能面においても特長ある「ハッピーサークル」



自信の把手「ハッピーサークル」で 全国にいるお客様へ幸せを届けるお手伝い

スピードを意識して問題を瞬時に修正し、クリーンな環境を維持しながら良質なものを生産する同社の品質については、全国から高い評価を得ています。

これまでプラスチック容器や紙袋の把手を作ってきた実績を活かし、新たに挑戦したのが、上質で高級感を持った「ハッピーサークル」という小袋用把手開発です。デザイン性を重視した同商品は、従来の2本タイプの把手ではなく、1本の形状にすることで、袋を閉じた際に横から見ると真円に見えるデザインが特長。開発当初はきれいな円を描くことができず、また従来製品よりも強度に問題があったそう。何度も試行錯誤を繰り返しつつ開発を続け、オリジナリティ溢れる魅力に富んだ「ハッピーサークル」が完成しました。模倣品による被害を防ぐために、2017年4月には商標を登録。クリスマスやバレンタインなどの時期に合わせて展開し、従来製品よりも特別感を感じられる製品として、すでにバレンタインチョコレートのパッケージとしての採用が決まっています。

「ハッピーサークルという自社製品を持つことは、新たなニーズを見つける手がかりとなる」と話す松浦氏。今後も少数精鋭で培った経験や情報を活かしながら「幸せを運ぶ製品」を作り続けることでしよう。